

## 貸借対照表

2026年3月31日現在

(単位:百万円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
<b>流動資産</b>	<b>320,944</b>	<b>流動負債</b>	<b>380,059</b>
現金及び預金	163,073	営業未払金	79,314
営業未収金	100,837	短期借入金	38,331
棚卸資産	489	一年内返済予定の長期借入金	17,734
前払金	32,323	リース債務	729
前払費用	2,566	未払金	5,434
未収還付法人税等	72	未払費用	12,982
立替金	16,173	前受金	97,168
その他	5,408	預り金	9,180
<b>固定資産</b>	<b>249,642</b>	旅行積立預り金	41,236
<b>有形固定資産</b>	<b>22,825</b>	商品券	39,676
建物・構築物	8,162	旅行券	37,150
機械装置及び運搬具	26	その他	1,121
器具備品	1,657	<b>固定負債</b>	<b>92,750</b>
土地	9,526	長期借入金	2,570
リース資産	1,322	リース債務	592
建設仮勘定	2,130	預り保証金	5,637
<b>無形固定資産</b>	<b>16,742</b>	旅行積立預り金	1,948
権利金	63	長期未払法人税等	6
ソフトウェア	16,679	再評価に係る繰延税金負債	158
<b>投資その他の資産</b>	<b>210,074</b>	退職給付引当金	28,394
投資有価証券	61,878	役員退職慰労引当金	573
関係会社株式	104,447	旅行券等引換引当金	41,315
長期貸付金	6,694	投資等損失引当金	73
差入保証金	8,643	その他	11,480
長期前払費用	906	<b>負債合計</b>	<b>472,810</b>
前払年金費用	13,490	<b>純資産の部</b>	
繰延税金資産	5,717	<b>株主資本</b>	<b>90,089</b>
その他	10,724	資本金	100
貸倒引当金	△ 2,428	利益剰余金	89,989
		利益準備金	25
		その他利益剰余金	89,964
		繰越利益剰余金	89,964
		<b>評価・換算差額等</b>	<b>7,686</b>
		その他有価証券評価差額金	7,033
		繰延ヘッジ損益	1,832
		土地再評価差額金	△ 1,178
		<b>純資産合計</b>	<b>97,775</b>
<b>資産合計</b>	<b>570,586</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>570,586</b>

## 損益計算書

自 2025 年 4 月 1 日

至 2026 年 3 月 31 日

(単位:百万円)

科 目	金 額	金 額
売上高		
事業売上高	777,095	
グループ運営収入	2,263	
関係会社受取配当金	2,319	781,678
売上原価		
事業売上原価		600,520
売上総利益		<u>181,158</u>
販売費及び一般管理費		
営業利益		<u>180,503</u>
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,940	
関係会社貸倒引当金取崩益	285	
その他の	263	2,488
営業外費用		
支払利息	990	
旅行積立前受割引額	159	
為替差損	474	
関係会社貸倒引当金繰入額	3,209	
その他の	250	5,085
経常損失		<u>1,941</u>
特別利益		
固定資産売却益	683	
投資等損失引当金取崩益	514	1,198
特別損失		
固定資産除却損	130	
減損	2,539	
関係会社株式売却損	210	
投資有価証券評価損	343	
その他の	33	3,258
税引前当期純損失		<u>4,001</u>
法人税、住民税及び事業税	△ 240	
法人税等調整額	△ 1,779	△ 2,019
当期純損失		<u><u>1,981</u></u>

## 株主資本等変動計算書

自 2025 年 4 月 1 日

至 2026 年 3 月 31 日

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	利益剰余金			株主資本合計
		利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
2025年4月1日残高	100	25	92,407	92,432	92,532
事業年度中の変動額					
剰余金の配当			△ 460	△ 460	△ 460
当期純損失			△ 1,981	△ 1,981	△ 1,981
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額)					-
事業年度中の変動額合計	-	-	△ 2,442	△ 2,442	△ 2,442
2026年3月31日残高	100	25	89,964	89,989	90,089

(単位:百万円)

	評価・換算差額等				純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延 ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等 合計	
2025年4月1日残高	1,510	194	△ 1,178	526	93,058
事業年度中の変動額					
剰余金の配当					△ 460
当期純損失					△ 1,981
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額 (純額)	5,522	1,637	-	7,159	7,159
事業年度中の変動額合計	5,522	1,637	-	7,159	4,717
2026年3月31日残高	7,033	1,832	△ 1,178	7,686	97,775

## 個 別 注 記 表

### 【重要な会計方針に係る事項に関する注記】

#### 1. 資産の評価基準及び評価方法

##### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法を適用しております。

② 満期保有目的債券 取得価額によっており、償却原価法を適用しております。

##### ③ その他有価証券

###### (a) 市場価格のない株式等以外のもの

時価法を適用しております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

###### (b) 市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を適用しております。

##### (2) デリバティブ等の評価基準及び評価方法

時価法を適用しております。

##### (3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定）により評価しております。

#### 2. 固定資産の減価償却の方法

##### (1) 有形固定資産・・・定率法を適用しております。

(リース資産以外) ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物は、定額法を適用しております。

なお、主な耐用年数は、建物3～50年、構築物3～60年、器具備品2～20年であります。

##### (2) 無形固定資産・・・定額法を適用しております。

(リース資産以外) なお、ソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を適用しております。

##### (3) リース資産・・・所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を適用しております。

### 3. 引当金の計上基準

- (1) 貸倒引当金・・・・・・・・・・売上債権、貸付金等の債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
- (2) 退職給付引当金・・・・・・・・・・従業員への退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。  
数理計算上の差異及び過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（11年）による定額法により按分した額を、数理計算上の差異は発生の翌事業年度から、過去勤務費用は発生の事業年度からそれぞれ費用処理しております。
- (3) 役員退職慰労引当金・・・・・・・・・・役員への退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく期末要支給額を計上しております。
- (4) 旅行券等引換引当金・・・・・・・・・・一定期間未引換のため収入計上した旅行券・商品券等の今後の引換行使に備えるため、当事業年度末における未引換実績率に基づく引換行使見込額を計上しております。
- (5) 投資等損失引当金・・・・・・・・・・関係会社への投資等に伴う損失に備えるため、当該会社の財政状況を勘案し、損失負担見込額を計上しております。

### 4. 重要な収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）等を適用しており、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

#### (1) 募集型・受注型企画旅行等の旅行事業

旅行期間内で旅程管理という履行義務が充足されると判断していることから、旅行代金を対価として、旅行期間にわたり収益を認識しております。

#### (2) MICE事業（イベントや会議等の運営業務の受託事業）

イベント開催という履行義務がイベント開催時に充足されると判断していることから、契約金額を対価として、イベント開催期間にわたり収益を認識しております。

#### (3) セールスプロモーション（プロモーションの受託事業）及びその他業務受託事業

請負契約に関する業務提供という履行義務がサービスの提供に応じて充足されると判断していることから、契約金額を対価として、当事業年度末までの発生原価が見積原価総額に占める割合又は契約期間に基づいて収益を認識しております。

## 5. その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

### (1) ヘッジ会計の方法

- ① ヘッジ会計の方法・・・繰延ヘッジ処理によっております。  
なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理によっております。
- ② ヘッジ手段とヘッジ対象・・・1) ヘッジ手段 為替予約  
2) ヘッジ対象 海外旅行地上費に係る外貨建予定債務
- ③ ヘッジ方針・・・・・・・・・・デリバティブ取引に関する権限規定及び取引限度額等を定めた内部規定に基づき、ヘッジ対象に係る為替相場変動リスクを一定の範囲内でヘッジしております。
- ④ ヘッジ有効性評価の方法・・・ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計を四半期ごとに比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。

(2) グループ通算制度・・・・・・・・グループ通算制度を適用しております。

(3) その他・・・・・・・・・・貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表の記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

### 【収益認識に関する注記】

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記 4. 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

### 【会計上の見積りに関する注記】

会計上の見積りにより当事業年度に係る計算書類にその金額を計上した項目であって、翌事業年度に係る計算書類に重要な影響を及ぼすリスクがあるものは、次のとおりであります。

#### 1. 固定資産の評価

(1) 当事業年度の計算書類に計上した額

有形固定資産 22,825 百万円及び無形固定資産 16,742 百万円

(2) その他の情報・・・・・・・・ 当社は会社の事業特性、並びに当該会社における部門間の関係性の実態に基づいてグルーピングし、著しく収益性の悪化した固定資産の帳簿価額について、使用価値又は正味売却価額を回収可能価額として減損損失 2,539 百万円を認識しております。なお、見積に関する詳細については、連結計算書類における「会計上の見積りに関する注記」に記載のとおりであります。

## 2. 関係会社貸付金の評価

### (1) 当事業年度の計算書類に計上した額

関係会社貸付金 2,333 百万円及び貸倒引当金 1,680 百万円

- (2) その他の情報・・・・・・・・・・ 当社は子会社に対する貸付金の一部について、貸倒懸念債権と分類した上で財務内容評価法により貸倒見積高を算定し貸倒引当金の計上を行っております。貸倒見積高は、子会社の翌事業年度以降の業績予測及び直近の市場回復遅延リスクに基づき見積りを行っておりますが、将来の不確実な経済状況の変動等により、見積りにおいて用いた仮定の見直しが必要になった場合、翌事業年度の計算書類において、貸倒引当金の金額に重要な影響を与える可能性があります。

## 3. 繰延税金資産の回収可能性の評価

### (1) 当事業年度の計算書類に計上した額

繰延税金資産 5,717 百万円

- (2) その他の事項・・・・・・・・・・ 繰延税金資産は、税務上の繰越欠損金のうち未使用のものおよび将来減算一時差異を利用できる課税所得が生じる可能性が高い範囲内で認識しております。当該課税所得が生じる可能性の判断においては、将来獲得しうる課税所得の時期および金額を合理的に見積もり、金額を算定しております。当該見積もりは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、予測不能な事態により実際に発生した課税所得の時期および金額が見積もりと異なった場合、翌事業年度の計算書類において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

## 4. 関係会社株式の評価

### (1) 当事業年度の計算書類に計上した額

関係会社株式 104,447 百万円

- (2) その他の事項・・・・・・・・・・ 関係会社株式の評価において、投資先の財政状態が悪化もしくは超過収益力が減少したために実質価額が著しく低下した場合には、投資先の事業計画等を入手したうえで、株式の実質価額の回復可能性を見積もっております。当該見積もりは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、投資先の事業の計画等の見直しが必要となった場合、計算書類に重要な影響を与える可能性があります。

## 【貸借対照表に関する注記】

### 1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

短期金銭債権	16,869 百万円
長期金銭債権	2,863 百万円
短期金銭債務	39,020 百万円
長期金銭債務	2,485 百万円

### 2. 有形固定資産の減価償却累計額 35,958 百万円

### 3. 土地の再評価

「土地の再評価に関する法律」（平成 10 年 3 月 31 日公布法律第 34 号）に基づき、事業用の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。

#### (1) 再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」（平成 10 年 3 月 31 日公布政令第 119 号）第 2 条第 4 号に定める路線価に基づいて合理的な調整を行って算出しております。

#### (2) 再評価を行った年月日

2002 年 3 月 31 日

#### (3) 再評価を行った土地の当事業年度末における時価と再評価後の帳簿価額との差額

310 百万円

### 4. 保証債務

(単位：百万円)

保証先	保証金額	被保証債務の内容
TRAVEL PLAZA (EUROPE) B. V.	1,144	金融機関との取引に係る債務
JTB ITALY S. R. L.	962	金融機関との取引に係る債務
Kuoni Travel Investments Ltd.	534	金融機関との取引に係る債務
JTB USA, INC.	207	金融機関との取引に係る債務
株式会社旅館明治	200	金融機関からの借入に係る債務
JTB PTE. LTD.	185	金融機関との取引に係る債務
その他	313	金融機関との取引に係る債務 他
計	3,548	

## 5. コミットメントライン契約

当社は、効率的で安定した運転資金の調達を行うため、取引銀行3行とコミットメントライン契約を締結しております。コミットメントライン契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

コミットメントライン契約の総額	20,000 百万円
借入実行残高	<u>    - 百万円</u>
差引額	20,000 百万円

### 【損益計算書に関する注記】

#### 1. 関係会社との取引高

営業取引による取引高

売    上    高	12,057 百万円
仕    入    高	53,624 百万円
販売費及び一般管理費	<u>17,715 百万円</u>
計	83,397 百万円

営業取引以外の取引による取引高 1,175 百万円

#### 2. 減損損失

今後の業績見通し等を勘案した結果、収益性が著しく低下した固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(2,539 百万円)に計上しております。主な内容は、ソフトウェア 2,368 百万円であります。

### 【株主資本等変動計算書に関する注記】

発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首株式数 (株)	当事業年度 増加株式数 (株)	当事業年度 減少株式数 (株)	当事業年度末 株式数 (株)
普通株式	4,608,000	—	—	4,608,000

## 【税効果会計に関する注記】

### 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

#### 繰延税金資産

関係会社株式評価損	24,917	百万円
旅行券等引換引当金	14,629	
退職給付引当金	10,060	
固定資産減損	4,326	
未払賞与	2,981	
投資有価証券評価損	1,752	
関係会社貸倒引当金	595	
その他	5,196	
繰延税金資産 小計	64,459	
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額	△472	
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△50,025	
評価性引当額 小計	△50,497	
繰延税金資産 合計	13,962	百万円

#### 繰延税金負債

前払年金費用	4,779	百万円
その他有価証券評価差額金	2,340	
その他	1,125	
繰延税金負債 小計	8,245	
繰延税金負債 合計	8,245	百万円
繰延税金資産の純額	5,717	百万円

上記のほか、「再評価に係る繰延税金負債」として計上している土地の再評価に係る繰延税金負債の内訳は次のとおりであります。

#### 再評価に係る繰延税金資産

再評価に係る繰延税金資産	520	百万円
評価性引当額	△520	
合計	—	百万円

#### 再評価に係る繰延税金負債

再評価に係る繰延税金負債	158	百万円
合計	158	百万円
繰延税金負債の純額	158	百万円

## 2. 法人税及び地方法人税の会計処理又はこれらに関する税効果会計の会計処理

当社は、グループ通算制度を適用しております。また、法人税及び地方法人税に係る税効果会計に関する会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」（実務対応報告第42号 2021年8月12日）に従っております。

### 【リースにより使用する固定資産に関する注記】

1. 貸借対照表に計上した固定資産のほか、汎用コンピューター及び周辺関連設備一式、事務用機器・備品一式等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

### 【関連当事者との取引に関する注記】

1. 親会社及び法人主要株主等  
該当事項はありません。

## 2. 子会社及び関連会社等

(単位：百万円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有（被所有）割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	㈱JTB グローバルマーケティング&トラベル	所有 直接 100%	資金の借入	資金の借入 (注2)	10,150	短期借入金	10,150
				利息の支払 (注2)	44	未払費用	9

#### 取引条件及び取引条件の決定方針等

(注1) 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して価格交渉の上で決定しております。

(注2) 取引金額には消費税等を含めておりません。

(注3) 資金の借入・貸付については、グループ内金融によるものであり、利率については市場金利を勘案して決定しております。借入金及び貸付金の取引金額については、JTBグループ全体で統合管理する資金取引であるため、期末残高を記載しております。

【1株当たり情報に関する注記】

1. 1株当たり純資産額 21,218円 75銭

1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	当事業年度末 (2026年3月31日)
貸借対照表上の純資産額	97,775百万円
普通株式に係る事業年度末の純資産額	97,775百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた 事業年度末の普通株式の数	4,608,000株

2. 1株当たり当期純損失 430円 11銭

1株当たり当期純損失の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	当事業年度 (自 2025年4月1日 至 2026年3月31日)
損益計算書上の当期純損失	1,981百万円
普通株主に帰属しない金額	-
普通株式に係る当期純損失	1,981百万円
普通株式の期中平均株式数	4,608,000株

【企業結合等に関する注記】

連結計算書類における「企業結合等に関する注記」に記載のとおりであります。